

## 研究構想図（1年次）

### 【社会状況】

様々な問題に立ち向かい、その解決に向けて、異なる他者と協働して力を合わせながら、それぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく力をもった人材が求められている。（中教審答申を参考）

### 【学校教育目標】

知 よく考え 進んで学ぶ子  
体 体をきたえ たくましい子  
徳 助け合う やさしい子

### 【児童の実態】

課題に対して真剣に取り組む子が多い。知識が豊富で高い学力を有しているが、協働して問題解決に向かうことがあまり見られない。また、自ら追究していくことが苦手であることや、学力の二極化が見られることも課題である。

## 研究主題

# 深い学びを実現する授業の創造 ～新学習指導要領を見据えて～

### 研究主題設定の理由

平成29年3月31日に新しい学習指導要領が告示された。小学校においては、平成32年度より全面実施である。残された期間は、3年しかない。本校の児童の実態については、各種学力調査の結果からみると、学習意欲を含め高い学力を有している。しかし、授業中に児童相互が高め合いながら、学びを深めていく姿はあまり見られない。20年後、30年後の社会を支え、豊かな未来を創造するためには、身に付けた資質・能力が様々な課題に対応できるようにすることが必要である。そこで、本研究主題を設定し、授業改善を目指すこととした。

### 研究のねらい

「深い学び」についての研究を通して、授業改善を目指し、研究1年次は、深い学びの実現に向けて目指す児童像（深い学びの姿）を設定し、有効な手だてを明らかにする。

### 目指す児童像

新学習指導要領第3の(1)「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」より

- ①知識を相互に関連付けてより深く理解する児童
- ②情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだしたりして 解決策を考えることができる児童
- ③思いや考えを基に創造することに向かう児童

### 研究の内容

#### ◎深い学びの姿の設定（1年次の重点）

#### 【低学年目指す深い学びの姿】

自分の考えや思いを言葉にして表し、互いの話を聴き合う中で自分の考えと似ていることや違いに気づき、友達に伝える。

#### 【中学年目指す深い学びの姿】

自分の考えをもち友達と伝え合うことで、物事を比較したり、関連付けたりし、新しい考えをもつ。

#### 【高学年目指す深い学びの姿】

試行錯誤を繰り返したり、友達と考えを交流したりすることで、物事を多角的に捉え、その上で根拠をもとに意思決定をする。

#### 〈具体的な手だて〉

学習過程の工夫

対話の工夫